

秋田学・白神学総合成果報告書

(平成22年4月～平成27年12月) 補遺版

平成28年1月

秋田大学教育文化学部

秋田学・白神学研究運営委員会

目 次

はじめに	1
秋田学・白神学ミニシンポジウム（記録）	3
教育・研究プロジェクト 秋田学・白神学について	31
沿 革	32
秋田学・白神学に関する研究業績（平成22年度～平成27年度12月）	33
秋田学・白神学に関する教育業績（平成26年度～平成27年度12月）	36
秋田大学教育文化学部卒業論文及び修士論文テーマ公募事業	
採択テーマ一覧（平成26年度）	37
成果報告会実施要項（平成26年度）	38
秋田学・白神学関連指教員別学部卒業者の卒業研究題目一覧	39
あとがき	40

地域と共に歩む大学をめざして

秋田大学教育文化学部長
武 田 篤

秋田大学教育文化学部では、平成19年度に秋田県からの委託を受け、県民が郷土に誇りと愛着を持ち、地域へのアイデンティティーを高めることを目的とした「元気なふるさと秋田づくり」の一貫として「秋田学」構築に関する事業を開始しました。平成20年度には、学部「秋田学・白神学研究会」を発足させ、これまで秋田の自然・風土・文化・歴史などについて、学内外と連携しながら研究を進め、その成果を積極的に地域に発信・還元してきました。その一例として、平成21年度には「秋田学・白神学の発展的な構築に向けた取り組み」報告書を刊行し、翌平成22年度には学外に向けて「地域学と地域おこし」をテーマにシンポジウム「秋田学ルネサンス - 秋田学の記憶、今、よみがえる、未来に向けて -」を開催しました。また、平成23年度には白神地域を中心に、文理協働的アプローチによる調査・研究を行い、その成果を「秋田学・白神学研究報告」として、さらに平成26年度には、過去5年間の研究実績をまとめた「秋田学・白神学総合成果報告書」を刊行し、地域に発信してきました。

地域興しと活性化の実現には、学問研究の裏づけが必須です。地域を総合的に理解し、支援していくためには、特定領域の狭い分野の研究だけでは成果を得ることはできません。そこでは、文系、理系、さらに芸術系を含んだ学際的な方法や文理協働的アプローチを駆使することによって、はじめて地域や社会が直面する難題の解決に取り組むことができます。幸い、わが教育文化学部には、人文・社会科学から自然科学にまで及ぶ幅広い学問分野にわたる研究者が集っています。実際、これまでの「秋田学・白神学」の研究内容をみても、アケビ油、ジオパーク、地衣類による環境モニタリング、風穴、社会科授業「秋田のハタハタ漁」、秋田の作曲家、秋田の民謡、地域文化調査、天文教育「白神の星」プロジェクト、中山間地域における高齢者世帯、湧水の涵養年代、古代史、近代における秋田の看護要員養成史、巨大噴火と古代遺跡、秋田の祭りなどがあり、多様な広がりをもって研究が展開されてきました。

昨年度、教育文化学部は、地域を支える人材養成という方向性を明確にし、新しい学部生まれ変わりました。教員養成を担う「学校教育課程」と地域活性化に貢献する人材養成を担う「地域文化学科」に再編、統合されました。教育文化学部は幅広い視点から地域の課題解決に取り組み、地域を支える総合能力を持つ人材の育成をめざします。これまでの「秋田学・白神学」の地域学研究で培った実績と財産は、新しく生まれ変わった教育文化学部の発展にも大きく貢献すると確信します。本報告書から地域の活性化を願い、地域と共に歩む大学の方向性と決意を読み取ってくだされば幸いです。

ミニシンポジウム

「秋田学・白神学の成果と教育展開、その可能性」

「秋田学・白神学」の成果は長年にわたる。その当初期から最近に至るまで、「秋田学・白神学」の研究成果および関連教育を担って来て下さった先生方をお招きし、ミニシンポジウム「秋田学・白神学の成果と教育展開、その可能性」を開催した。この講演記録は、「秋田学・白神学」の困難さも示しているが、何よりもその重要性和可能性を多様に示唆してくれている。まだ大きな流れには成りきっていないが、「秋田学・白神学」の実質的な中身は、各教員の研究教育だけではなく、たとえば地域文化学科の専門的基礎科目などに反映しつつあり、教職員・学生の共同準備を整えつつある。

以下、ミニシンポジウムの要旨等をどうか建設的に読んでいただければ幸いである。必ず、学部全体の滋養にもなると考える。

日時：平成27年12月11日（金）14：30～16：00

会場：秋田大学教育文化学部3号館344号教室

発表講演者：渡部育子 教授

林信太郎 教授

高村竜平 准教授

長瀬達也 教授

石井照久 准教授

志立正知 教授

池本 敦 教授

秋田学・白神学ミニシンポジウム 「秋田学・白神学の成果と教育展開、その可能性」

日 時：平成27年12月11日(金) 14時30分から16時00分まで

会 場：秋田大学教育文化学部3号館344号教室

次 第：14:30～14:35 学部長挨拶

14:35～15:45

発表者講演・質疑応答(各人講演7分・質疑応答3分)

渡部 育子 先生 「秋田学・白神学研究会発足から4年間をふり返る」

林 信太郎 先生 「秋田学・白神学その後の展開」

高村 竜平 先生 「秋田学の教育から研究へ」

長瀬 達也 先生 「山本鼎の秋田県図画教育への影響や、図画教育研究会「六葉会」の活動」

石井 照久 先生 「秋田の自然環境(マイナーな水中動物)とあきたの食」

志立 正知 先生 「秋田の八幡太郎義家伝説」

池本 敦 先生 「秋田の食資源を有効活用した地域貢献活動」

(発表順)

15:45～16:00 総合討論

司会：秋田学・白神学研究運営委員長 篠原 秀一

主催：秋田学・白神学研究運営委員会

問い合わせ先：秋田大学教育文化学部総務担当 TEL:018-889-2503

秋田学・白神学研究会発足から4年間をふり返る 渡部 育子

秋田学・白神学研究会発足から 4年間をふり返る

秋田大学教育文化学部
渡部 育子

平成19年度受託研究

林信太郎教授による研究グループの発足
「秋田学」の構築に関する研究会

秋田県総合政策課からの受託研究
平成20年3月1日シンポジウム
「秋田学」から探る秋田の可能性

年度計画推進経費による研究

平成20年度～平成23年度

池村好道学部長の下、年度計画推進経費を申請し、秋田学・白神学研究会を発足、各年度末の報告書刊行のほか、シンポジウム開催の事業を展開した。

世話人代表は当初、寺井謙次教授（現在、秋田大学名誉教授）がつとめたが、寺井教授の定年退職により渡部育子が引き継いだ

中期目標・中期計画

中期目標・中期計画にしたがって

秋田学・白神学などの学際的研究を進めることが課題であった

学際的研究とはどのようなことか？

文理融合の研究は可能か？

他大学の事例は？

学際的研究で得られるものは何か？

平成20年度

シンポジウム

「謎の遺跡『払田柵』から探る秋田の可能性」
パネルディスカッション「古代ロマンの里から探る秋田の可能性」

平成20年12月13日

於秋田大学教育文化学部

平成21年度

20年度までの取り組みが「法人評価」によって高く評価されたことで弾みがついた。

第2期中期目標・中期計画における教育文化学部の重点的取り組みに位置づけられる

「秋田学・白神学の発展的な構築に向けた取り組み」報告書の刊行

平成22年度

平成23年1月30日シンポジウム開催

於秋田ビューホテル

基調講演：岡田茂弘氏（国立歴史民俗博物館名誉教授）

『エリアスタディとしての秋田学』

パネルディスカッション「地域学と地域おこし」

* 当日の記録は報告書「秋田学ルネサンス—秋田学の記憶、今、よみがえる、未来に向けて—」に収録

3. 11 東日本大震災

平成23年度

ワークショップ「秋田学と地域開発」の開催

平成24年1月19日

於秋田大学教育文化学部

「平成23年度 秋田学・白神学研究報告」刊行

研究成果の教育活動、地域社会への還流をめざす

地域学研究の現状と課題

・学際的研究は可能か？

文理融合はきわめて困難

融合の方法論の確立がみられない

文理協働であれば可能ではないか

文と理の歩み寄り

相手にわかるリテラシー

異分野の研究者にわかってもらえる手立て

地域学研究に必要なものは？

「もの知り型」地域研究は発展しない？

入口が「地域」、出口も「地域」では普遍性に欠ける

異分野と方法論のすりあわせ、歩み寄りには普遍的理論の構築が不可欠

これらの方法論は確立していない

古代秋田をテーマにすると・・・

時間軸の設定～歴史学が得意とするところ

～7世紀

8世紀

9世紀～

空間軸のとりかた

秋田県中央部 南部沿岸 南部内陸 北部沿岸 北部内陸・・・地域性の違いが明らか

歴史学のあらたな取り組み

歴史学で空間軸を意識した近年の研究

歴史地理学（とくに自然地理学）

歴史空間学としての考古学

地域学研究が新たな段階に入っているのではないか

文理協働による秋田学構築は如何に？

秋田学・白神学その後の展開

林 信太郎

秋田学・白神学ミニシンポジウム

「秋田学・白神学の成果と教育展開，その可能性」

日 時：平成 27 年 12 月 11 日(金) 14 時 30 分から

16 時 00 分まで (1445-1455)

会 場：秋田大学教育文化学部 3 号館 344 号教室

秋田学・白神学その後の展開

林信太郎

秋田学・白神学は学問の垣根を越えて，秋田という地域，白神山地をめぐる地域を総合的に理解しようとする試みである。その成果は，地域振興と教育への活用双方へ有効と考えられる。

講演者は，近年秋田学・白神学の成果を地域に還元するために，ジオパーク活動の支援を行なっている。ジオパークは「大地の公園」ともいわれ，世界遺産と同様にユネスコによるプログラムである。現在日本には 2015 年 11 月現在 39 のジオパークがある（内 8 つがユネスコの世界ジオパーク）。補助金は一切出ないが，地域振興に効果があるためその数は増加中である。ジオパークの主な活動は自然資源の保全，教育への活用，地域振興の 3 点である。

今回は，秋田県北部の八峰白神ジオパークを例に，秋田学・白神学の成果がいかに関域振興に活用されているかを述べていきたい。

八峰白神ジオパークは，秋田県の北部の八峰町をエリアとするジオパークである。世界遺産白神山地の麓にジオパークが点在し，「白神山地の恵みに生きる」がテーマである。

秋田学・白神学の教育への活用：秋田学・白神学で得られた成果をもとに，ここ数年間八峰町の全小中学校で出前授業を行ってきた。先週は水沢小学校および埴川小学校である。ちなみに両学校は来年度から統合され，峰浜小学校となる。授業では，マグマが冷えて固まると岩になること，数千万年前から数百万年前の火山活動が，白神山地や八峰町の大地の多くの部分を作ったことを説明した。その後，そのような火山でできた大地を自分たちで作り，カットするという実験を行った。それに関連して，八峰町の景観の素晴らしさ，湧水の恵みなどについても説明した。

秋田学・白神学を活用したジオストーリー：ジオストーリーはジオパークの中の様々な要素を，ツーリストに語れるようにしたものである（最近，私はこども向けジオストーリー作家を目指している）。

白神山地は高い山だが、地質学的には実は謎が多い。これを説明するために提出されたモデルが、「マントルの熱い指」モデルである（田村，2003）。ここでは、詳しくは説明しないが、白神山地のような隆起山地と火山の分布をうまく説明できるモデルである。

また、白神山地の多くの部分は侵食抵抗力のある丈夫な火山岩でできている。このため、白神山地は、侵食に抵抗して高い山々となっているのである。白神さんから八峰町には豊かな水が流れてくる。また、白神山地内にもある数百万年前の火山岩には地下水が胚胎されている。

このような白神山地の恵みを活かして作られている、当地の名物を二つご紹介しよう。

一つ目は、山本合名酒造の「山本」である。ここでは白神山地の湧水を使って潤している自社の水田で作った米を、同じく白神山地の湧水で醸造している。機械好きの社長の酒造りは合理的で高い品質の日本酒を安定してつくっている。最近ではヨーロッパにも進出しようとしているという話が聞こえてきた。

二つ目は白神酵母を使用したボスケットのパン。白神酵母は白神山地から発見された酵母である。白神山地は生物多様性が高く、貴重な遺伝子資源ともなっている。その酵母を使ったパンはもちもちとしていて美味である。クリームパンにすると、パン生地とクリームの食感のハーモニーが抜群である。

このような地域の名物も、それを裏付ける物語を付け加えることでさらに魅力を増すことが可能である。

今後、秋田県の各地のジオパークを支援し、教育活動への貢献、交流人口の増加による地域の活性化に貢献していきたい。

秋田学・白神学ミニシンポジウム
「秋田学・白神学の成長と教育展開 その可能性」
日 時：平成27年12月11日(金) 14時30分から
16時00分まで(1445-1455)
会 場：秋田大学教育文化学館3号館344号教室

秋田学・白神学その後の展開

林信太郎

ドローンで空中 写真撮影





ジオパーク

- 大地の公園
- 「風土」
- 地質学, 地形学, 水文学, 気象学, 生態学を
シームレスにつなぐジオストーリー

白神山地はなぜ高い

侵食に強い 米代川からの土砂 ハタハタ
古い火山岩 岩石海岸 小さな
白神山地の隆起 第四紀火山
侵食に弱い 起伏のある山地 マントルの
堆積岩 多雪地域 熱い指
地すべり ブナ林
伐採が困難 世界遺産 白神山地
パン 白神酵母 湧水 日本酒





秋田学の教育から研究へ

高村 竜平

秋田学の教育から研究へ

秋田学・白神学ミニシンポジウム

2015.12.11

高村竜平

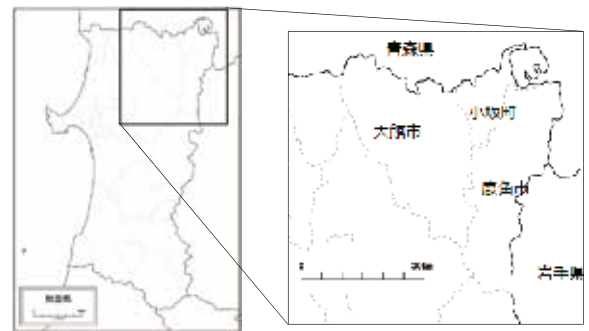
フィールドワーク型授業の経験

- 旧国際言語文化課程
「日本・アジア文化調査実習」Ⅰ～Ⅲ
－ 能代市・小坂町・横手市などの調査
- 地域文化学科「地域学基礎」
－ 大町・通町などの調査
- 「地域連携プロジェクトゼミ」?

2009年度 小坂町調査

日高水穂・高村竜平
編『小坂町 記憶と生成の民俗誌』2010.2

- 受講生
4年次 3名
3年次 5名
2年次 5名



調査テーマ一覧

鉾山町の変遷

- アカシアとその利用
- 商業地域の変容
- 理容室
- 水路
- 山神社

町を取り巻くコミュニティ

- 鉾山発見伝承
- セタまつり
- 集落コミュニティ

境界と移動

- 十和田湖
- 伝説(だんぶり長者)
- 「かやき」
- 定期市

指導教員による概要説明

- 日高「東北部の文化的連続性」
－ 「眠り流し」行事、「だんぶり長者」伝説の分布と類型について
－ 十和田湖を中心としたつながりについて
- 高村「近現代の小坂町と小坂鉾山」
－ 行政区域及び神社の合併
－ 藤田組＝同和鉾業＝DOWAグループについて
－ 鉾山町の変化について

「鉱山の町からリサイクルの町へ」

「長期的に見て、鉱業生産は衰退に向かったことは、秋山報告や久保田報告で示されている通りである。とはいえ、近年では黒鉱製錬の経験を活かし、現在使用済み電気・電子製品からの金属資源開発に応用され、リサイクルの街として再興を図っていることもよく知られている。」(前述高村論文)
→事実ではある、しかし・・・

気づいていなかったこと

- ・ 最終処分場
「グリーンフィル小坂」
- ・ そこへの首都圏一般
廃棄物の搬入

『秋田魁新報』2011.07.12

セシウム含む灰本県に

千葉から運搬、基準の3.5倍

千葉県松戸市の焼却灰が、秋田市の焼却灰に基準値の3.5倍のセシウムを含むことが発覚した。大館市にある「グリーンフィル小坂」に埋め立てられた焼却灰のセシウム濃度は、大館市・小坂町に運ばれる予定の焼却灰に基準値超過のセシウムが含まれていることが発覚。大館市・秋田県から戻される。またすでに小坂町「グリーンフィル小坂」に埋め立てられたことが発覚。
千葉県松戸市からのセシウム基準値超過焼却灰がすでに「グリーンフィル小坂」に埋め立てられていることが確認される。大館市・小坂町は首都圏からの焼却灰受け入れ中止。
小坂町、放射能濃度のサンプル検査、搬入ごとの空間放射線量測定、覆土、放流水の調査などの対策を条件に受け入れ再開の意向を表明。
受け入れ再開のための町民向け説明会開催
「放射性物質の受け入れを反対する町民の会」が署名3,328筆（うち町民3,246人分、町の総人口は6,053人）を提出。
「米代川の清流といのちを守る流域連絡会」（「守る会」）設立
小坂町議会、焼却灰の実態説明を求める決議を全会一致で可決
守る会、搬入再開反対署名3,876筆を小坂町議会と議長に提出。
守る会、「放射性焼却灰の受け入れ再開を考える会」を開催。
市川市からの焼却灰搬入再開、流山市・川口市からの再開を決定。

「リサイクルと廃棄物処理の町」へ

1980	小坂で原料として電子基板の使用開始
1987	大館市花岡に廃棄物処理会社「同和クリーンテックス」（現「エコシステム花岡」）設立
1990	小坂鉱山で採掘中止、製錬は継続
1994	花岡鉱山で採掘中止
1998	経済産業省、「秋田北部エコタウン事業」承認
2005	最終処分場「グリーンフィル小坂」開業
2006	同和鉱業が持ち株会社「DOWAホールディングス」に
2008	小坂で電子基板からの有用金属回収本格化
2011	東日本大震災・福島第一原発事故

2011年

3.11 東日本大震災、福島第一原発事故

7.11 千葉県流山市から大館市・小坂町に運ばれる予定の焼却灰に基準値超過のセシウムが含まれていることが発覚。大館市・秋田県から戻される。またすでに小坂町「グリーンフィル小坂」に埋め立てられたことが発覚。

7.14 千葉県松戸市からのセシウム基準値超過焼却灰がすでに「グリーンフィル小坂」に埋め立てられていることが確認される。大館市・小坂町は首都圏からの焼却灰受け入れ中止。

8.13 小坂町、放射能濃度のサンプル検査、搬入ごとの空間放射線量測定、覆土、放流水の調査などの対策を条件に受け入れ再開の意向を表明。

9.13-20 受け入れ再開のための町民向け説明会開催

10.18 「放射性物質の受け入れを反対する町民の会」が署名3,328筆（うち町民3,246人分、町の総人口は6,053人）を提出。

2012年

7.23 「米代川の清流といのちを守る流域連絡会」（「守る会」）設立
小坂町議会、焼却灰の実態説明を求める決議を全会一致で可決

8.24 守る会、搬入再開反対署名3,876筆を小坂町議会と議長に提出。

9.22 守る会、「放射性焼却灰の受け入れ再開を考える会」を開催。

11.21 市川市からの焼却灰搬入再開、流山市・川口市からの再開を決定。

『秋田魁新報』のコラムより

「ごみの焼却灰まで県北に流入していた。放射性セシウムに汚染された灰が。人とエネルギー、食料、部品まで供給し大都市の繁栄を支えてきた東北。その一方で、首都圏の最終処分ごみを引き受けている現実。割り切れなさまで抱いてしまう。」(「北斗星」2011.7.23)

二重になった「中心／周辺」

- ・ ゴミを出す「首都圏」／ゴミを引き受ける「東北」という図式
- ・ しかし、秋田市にしながら大館・小坂に最終処分場があることを忘却

「首都圏」／「東北」

共同研究への参加

トヨタ財団研究助成プログラム

「原発災害を契機とした「国内植民地」構造再編の把握
—「公害」の経験を参照軸とした新たな農業・農村研究
の構築」

代表者：中田英樹（明治学院大学）

期間：2012.11～2014.10

- ・戦後日本の地域開発史から震災後の社会を考える。
- ・農業経済学・環境社会学・文化人類学など
- ・岩手県陸前高田市、高知県旧窪川町、福島市など

高村の研究内容

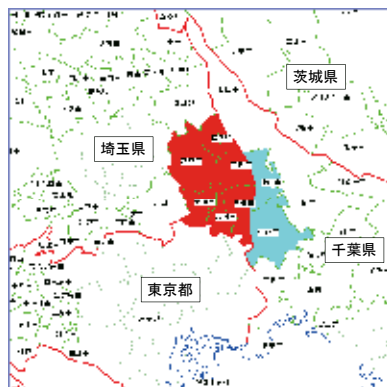
- ・鉱山の歴史
 - ・リサイクルと廃棄物処分場の歴史
 - ・一般廃棄物受け入れ地域の文書調査
 - ・受け入れ再開反対運動グループへのインタビュー
- 鉱山閉山後の地域社会の変化
その背景としての戦後日本の中央-地方関係

グリーンフィル小坂への首都圏一般廃棄物搬入(単位:t)

品名	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
さいたま市	9,243	9,238	9,421	13,850	13,568	3,506	1,288	1,288	
川口市	998	4,600	4,218	4,300	4,200	1,463	1,600	1,860	
加須市・騎西町衛生施設組合	968	1,067	1,043	973	1,000	940	283	260	
杉野町		503	387	399	415	560	477	77	
伊奈町		503	387	419	450	450	19	200	
羽生市					462	528			
上尾・横川・伊奈衛生組合					2	2			
志木地区衛生組合								900	
東武東上線環境組合								7,000	
小計	968	12,134	15,655	15,430	20,479	20,248	5,748	2,888	11,585
松戸市	4,832	6,212	7,305	7,624	9,600	9,600	2,197		
習志野市	1,761	1,704	1,026	790	810	850	256	200	650
市川市		5,288	11,574	10,742	8,460	9,180	2,193	1,670	3,950
柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合		1,542	1,448	1,409	1,390	1,480	546		600
館山市				3,119	3,200	3,200			
袖ヶ浦市				2,743	750	333			280
成田市					360	360		450	
木更津市					800	660			620
君津市					564	564			450
流山市					1,000	2,100		200	1,900
八千代市					850	850		272	750
八千代市					90	90			
船橋市									500
船橋市									2,750
長生郡市川城市町村組合									800
館南地区衛生組合									90
佐倉・酒々井町清掃組合									530
小計	6,593	14,746	21,353	26,427	27,874	29,267	5,191	2,792	13,870
その他	0	18,733	18,063	17,851	25,753	25,626	19,974	4,662	19,347
合計	7,561	45,793	55,071	59,708	74,106	75,141	30,913	10,342	44,802

グリーンフィル小坂への首都圏一般廃棄物搬入

- ・2005年開業時に、埼玉県加須市・騎西町および千葉県松戸市・習志野市から搬入
- ・2010年段階で2/3が首都圏からの搬入
- ・2012年、さいたま市・千葉縣市川市・流山市から受け入れ再開
- ・2013年、「東埼玉資源環境組合」から新たに受け入れ→花岡から小坂へ



教育から研究への展開

- ・フィールドワーク教育からの新たな研究課題発見
- ・秋田を知ると同時に、韓国についても新たな視点で考え直すきっかけに

山本鼎の秋田県図画教育への影響や、図画教育研究会「六葉会」の活動

長瀬 達也

2015.12.11 ミニシンポジウム

山本鼎の秋田県図画教育への影響や、 図画教育研究会「六葉会」の活動

教育文化庁教育実践講座 長瀬達也

秋田県では現在でも、小学生や中学生の絵に写実的な表現や、完成度の高さを求める傾向がある。

要因の一つが、昭和2年に秋田県の師範学校図画教員や小学校教員が結成した「六葉会」にあるのではないかと考えている。

同展に合わせて「図画手工教育講演会」が開催され、山本と後藤が講師努めている。

秋田県師範学校の5年生全員が、参加している。



1. 六葉会について

昭和2年(1927)6月12日

秋田県師範学校教諭の大木善平と、小学校教員で「絵に趣味」を持つ蓮沼繁、細矢敬一、小川宗一、丹埜雄、齋藤長悦の6人が結成。

蓮沼繁は大正12年、丹埜雄は大正14年、齋藤長悦は大正15年、小川宗一は昭和2年に秋田県師範学校卒業。

大木が勤務する秋田県師範学校の校友会は、『校友会誌』第61号(昭和3年度)に、山本の講演「図画教育の現状に認むる三つの欠陥」の記録を掲載(全8頁)。



同会は、絵の「実技の練習を主」とし、それが自ずと「小学校の図画一般」についての「研究」になるとした。大木が会長。

大木善平は、東京美術学校図画師範科を大正13年に卒業、同年4月から昭和17年4月まで秋田県師範学校に図画担当として在職。その後、地元の埼玉県に戻って埼玉県立児玉高等女学校(現埼玉県立児玉高等学校)に勤務。

自由画教育提唱者であった山本鼎は同講演で、図画教育においてクロッキーを含むデッサン教育を重視して、図画教育の基本とする姿勢を鮮明にしている。

↓

- ・秋田県師範学校の大木善平は、山本の自由画教育論や、デッサン教育重視などを肯定していた。
- ・山本の来県は、秋田県の図画教育振興の機運に十分な刺激を与えた。

大木は秋田県師範学校の絵画部をさらに活発な活動に導いている(前任は地主俤助)。同校絵画部は絵画展だけでなく、昭和3年度には六葉会会員との「協同のデッサンの研究等」なども実施。

昭和3年に山本鼎(洋画家)と学校美術協会の後藤福次郎が審査員となった「秋田魁新報社主催 御大礼記念全県小学校児童作品展覧会」では、秋田県師範学校の絵画部部員が陳列作業に参加。

昭和2年(1927)6月12日

(秋田新聞)昭和2年10月29日付)

「六葉会」が結成される。「学校職員の中で、絵に趣味をもつ者たち」が、隔週の日曜日毎□集合して「**実技の練習**」し、「得難い真理」を得るのが目的。このようにして得た「自信」によって、「**小学校の図画科**」を迷うことなく指導するとしている。「**実技の練習**」が、自ずと「**小学校図画一般についての研究**」になるとしている。

- 9 -

「六葉会出品洋画」『秋田魁新報』昭和4年6月
16日付より 大木善平（会長）『うらゝか』



- 13 -

蓮沼の「深き修養」とは何か。



教員自身が、**デッサン**を基礎とし、**写実的な表現による絵画制作などを日常的に行う**ことで美術を理解し、**図画教育を進める**ことと考えられる。



このような機運が高まって来て、昭和11年8月に「秋田県図画教育研究会」の結成大会が実施されたと考えられる。

- 10 -

「六葉会出品洋画」『秋田魁新報』昭和4年6月
18日付より 小川宗一（会員）『晴天の日』



- 14 -

3. 「秋田県図画教育研究会」について

- ・創立会議は昭和11年4月14日に秋田県教育事務所。会長大木善平。顧問は「文部省図書編集委員」の平田栄二（**日本画家**）と水平穰（秋田市出身・**洋画家**）、及び秋田県在住の**洋画家**伊藤弥太
- ・結成大会は昭和11年8月2日に中通小学校。講師は奈良女高師附奈良女子高等師範学校附属小学校訓導曾根靖雅、240名参加

- 11 -

2. 蓮沼繁（六葉会創立会員）

『図画教育振興に関する意見』

『図画教育振興に関する意見』は、手書き（原稿用紙）が冊子になっている。

「秋田市明德小学校内 蓮沼繁」とある。蓮沼は秋田県師範学校の「代用附属」として扱われていた秋田市立明德尋常高等小学校に、昭和4年3月から7年3月まで勤務。したがって、この間に同書を書いたと考えられる。当時も六葉会で活動。

- 15 -

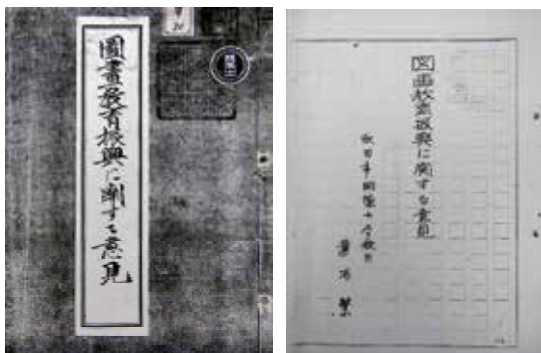
4. 当時の教員の絵画制作について

* 六葉会結成は昭和2年6月

昭和2年8月発行『アトリエ』9月号



- 12 -



- 16 -

6. 現段階でのまとめ・・・

- (1) 小学校教員を主とする洋画団体「六葉会」では、写実が主流だった。また、山本鼎の自由画教育論やデッサン等を重視する姿勢を肯定。
- (2) 「六葉会」は図画教育振興のために、教員がデッサンや絵画に取り組むことが必要だとした。
- (3) 「六葉会」や「秋田県図画教育研究会」は、教員が秋田県師範学校などを卒業してからも、デッサンや絵画に取り組む「文化」を創り出した。

秋田の自然環境（マイナーな水中動物）とあきたの食

石井 照久

秋田の自然環境 （マイナーな水中動物）と あきたの食

石井照久

秋田のマイナーな水中動物 ①

- 2種の淡水海綿を県内で新規に発見し、論文報告した(石井と益田、2001; 秋田大学教育文化学部研究紀要自然科学 56:25-34)。

シナカイメン、マツモトカイメン(どちらも八郎潟より)

#益田は、淡水海綿の研究者。

- ジーカイメン(南方種)も県内で新規に発見(八郎潟より)(これまでの北限が茨城だったので更新)。これは、まだ論文を書いていない。

現在、県内には10種の淡水海綿が生息
(日本国内には25種が生息)

シナカイメン



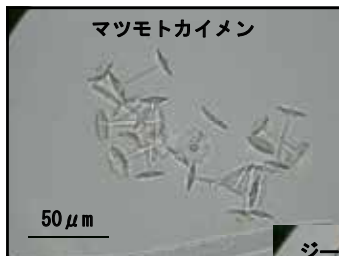
マツモトカイメン



ジーカイメン

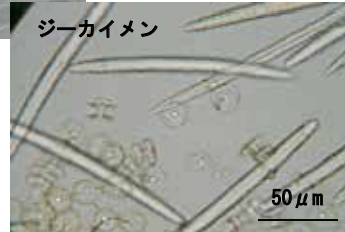


マツモトカイメン



淡水海綿の種の判定に使う芽球骨片の顕微鏡写真

ジーカイメン



秋田のマイナーな水中動物 ②

- 2種の淡水ヒドラを県内で新規に発見し、論文報告した(石井・大澤・羽田、2014 ; 秋田大学教育文化学部研究紀要自然科学 69:113-120)。

チクビヒドラ、ヤマトヒドラ(どちらも八郎潟より)

#大澤と羽田は卒論学生。

日本には5種(?)の淡水ヒドラが生息
秋田に何種いるかは今後の課題



チクビヒドラ



ヤマトヒドラ

秋田のマイナーな水中動物 ③

- ・3種の淡水コケムシを県内で新規に発見し、論文報告した(石井、1997;秋田大学教育文化学部研究紀要自然科学 52:65-71 石井、1998;うみうし通信 21:2-4 石井、2002;秋田大学教育文化学部研究紀要自然科学 57:1-6)。

オオマリコケムシ、ヒメテンコケムシ

ヒアリネラ・プンクタタ

(すべて八郎潟より)

・県内のコケムシを含む日本のコケムシの分子系統を解析し、論文報告した

(Okuyama, Wada and Ishii, 2006; Zoologica Scripta 35:243-249)。

Okuyama, Wada は研究者。



オオマリコケムシ (虫体=約1.5ミリ)

巨大な群集塊 (浮遊)
長径=約30cm

石に付着している群集
長径=約10cm



ヒメテンコケムシ (虫体=約1.5ミリ)

石に付着している群集
長径=約1cm



ヒアリネラ・プンクタタ

スタトブラスト

秋田のマイナーな水中動物 ④

- ・淡水ウドンゲの生息を県内で再確認し、論文報告した(石井、1997;秋田大学教育文化学部研究紀要自然科学 52:65-71 石井、1998;うみうし通信 21:2-4)。

シマミズウドンゲ(幻の動物)

本県の八郎潟を含み国内に7か所のみで生息



シマミズウドンゲ (唯一の淡水曲形動物)
毒部の長さ=約0.5ミリ

八郎潟を含め日本では7箇所が生息=幻の動物 (1974年日本初記録)
八郎潟では17地点で生息 (1975年初記録; 鳥海)

越冬状態から無性生殖をする - 八郎潟でも確認 -
有性生殖をするらしい (国内未確認) - 八郎潟でも未確認 - (今後の研究課題)
産卵という構造を形成するが、その方法は未だ未解明 (今後の研究課題)

秋田のマイナーな水中動物 ⑤

- ・淡水タナイス
- ・淡水カイミジンコ
- ・サンショウウオ
- ・プランクトン
- ・クマムシ(コケや土壌にも生息)
- ・陸貝(いわゆるカタツムリ; 水中ではない)

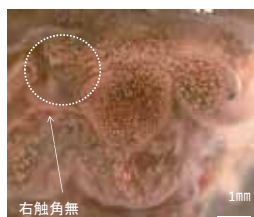
論文報告は未だが、卒論学生と研究中。

- ・秋田県内から生息の新記録を報告できたのは、
○研究者が不在だったから
○分布を広げている所にちょうど遭遇したから
#これらの動物を卒論学生も研究している。
#八郎潟のヒメタニシには、目の数異常と触角異常があり、2000年から継続調査中(卒論学生と)。
#オオクチバスの奇形を論文報告(石井、2000; 秋田大学教育文化学部研究紀要自然科学 55:1-6)。
#県内の市町村のシンボル生物を調査し、論文報告した(石井と菅原、2010; 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 32:125-133)。菅原は卒論学生。

触角の異常個体

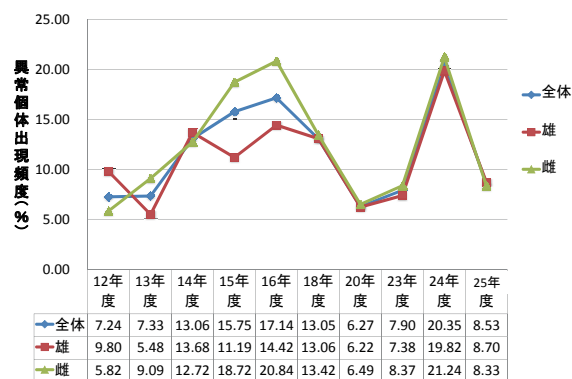


雄・眼 1:1
・触角 右触角細

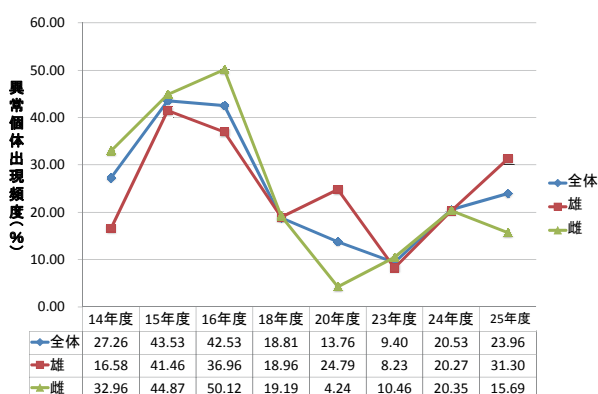


雄・眼 0:1
・触角 右触角無

眼の数の異常個体出現頻度《年度比較》



触角の異常個体出現頻度《年度比較》



あきたの食

- ・教育文化学部の授業科目「地域学基礎「あきたの食」」の4年間で学生達が

○あきたにどんな食があるか調べた(2012年)。

○学校給食(秋田市、横手市)で地元ならではの食が提供されているかどうか調べた(2012年)。

○あきたの梨を使ったメニューを開発した(2013年)。考案したメニューのうち2品(梨と鶏肉の中華炒め、梨と鶏肉のトマト煮込みカレーピラフ添え)が、実際に秋田大学生協食堂手形店で、1日限定(2013年11月20日)であるが、提供された。

○あきたの銘菓を調べた(2013年)。
○あきたの米と米粉を調べた(2013年)。
○あきたの味噌を調べた(2013年)。

○秋田県産100%ラーメンを自作した(2014年)。
そのレシピ情報をクックパッド
<http://cookpad.com/recipe/2903986> に掲載した。

○あきたならではのラーメン「ねばとろラーメン」を開発した(2014年)。「ねばとろラーメン」が、実際に秋田大学生協食堂手形店で、2日限定(2015年5月11日、12日)であるが、提供された。

○「秋田ラーメン」を提唱した(2014年)。

○「秋田米粉焼き」を提唱し、自作し、スーパー、JA全農あきた、淡路製粉などに提案した(2015年)。
そのレシピ情報をクックパッド
<http://cookpad.com/recipe/3516744> に掲載した。

⇒あきたの食文化の特色を浮き彫りにしつつある。

あきたの食、に関連した成果論文

石井、2014; 秋田大学教養基礎教育研究年報 16: 35-43

石井・山名・宮野・立花、2015秋田大学教養基礎教育研究年報 17: 41-51

秋田の八幡太郎義家伝説

志立 正知

秋田学・白神学ミニシンポジウム 2015. 12. 11

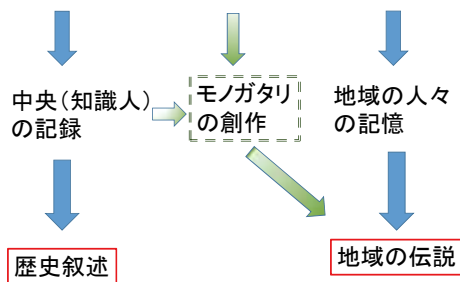
秋田の八幡太郎義家伝説

人間文化講座 志立正知

秋田の伝説

- ・小野小町伝説(湯沢市雄勝)
- ・坂上田村麻呂伝説(秋田市・男鹿・阿仁etc)
- ・八郎太郎伝説(八郎潟・十和田湖)
- ・タツ子伝説(田沢湖)
- ・国鱒伝説(田沢湖)
- ・八幡太郎義家伝承(平鹿・仙北)
- ・三吉鬼伝説(太平山)
- ・与次郎狐伝説(秋田市)
- ・老犬神社伝説(大館)

出来事の発生



錦仁『浮遊する小野小町』(笠間書院)
『小町伝説の誕生』(角川選書)

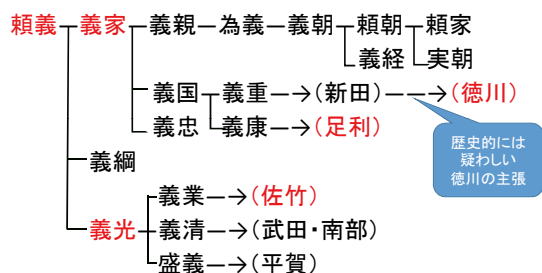
秋田の小野小町伝説

- ・歌才・美人(『古今和歌集』仮名序:平安中期)
 - ・秋田雄勝の出身
出羽国郡司の娘(『古今和歌集目録』:平安後期)
父は小野良実(『尊卑分脈』:室町期)
 - ・晩年に零落・老醜の小町
零落した小町(『玉造小町壮衰書』:平安後期)
野ざらしとなった小町(『袋草子』:平安後期)
 - ・深草少将との恋
百夜通い(謡曲『卒塔婆小町』:室町期)
- 以上はいずれも京都で成立

◆秋田の小町を記した資料の初出
『奥羽永慶軍記』:元禄期

錦仁『浮遊する小野小町』(笠間書院)
『小町伝説の誕生』(角川選書)

源氏將軍家の祖としての頼義・義家 源氏略系図



◆義家との関係を家の起点とする鎌倉武士(軍記)

川合康『鎌倉幕府成立史の研究』(校倉書房)
『源平合戦の虚像を剥ぐ』(講談社)



新羅三郎源義光
(佐竹氏の祖)



八幡太郎源義家
(源氏の棟梁)

天徳寺所蔵

秋田の義家伝説

赤字は安倍合戦伝説



金沢柵

金沢八幡宮と権五郎の功名塚



後三年合戦の古戦場跡といわれる。

康平年中に安倍の居城があり、義家がこれを攻略したという(18世紀前半)

秋田の義家伝説

赤字は安倍合戦伝説



西沼(平安の風わたる公園)

金沢攻撃に向かう義家が雁行の乱れで伏兵を察知したという



江戸時代の記録はなし。明治以降の戦史研究で比定される

秋田の義家伝説

赤字は安倍合戦伝説



沼柵跡(沼館)と沼館八幡宮



後三年合戦沼柵跡か

戦国期は小野寺氏の居城

沼館庄司次郎の居城という伝承



安倍合戦に勝利した義家が、沼館庄司次郎の配下であった小野寺氏に命じて八幡宮を建立させたという伝承

秋田の義家伝説

赤字は安倍合戦伝説



神宮寺嶽と神宮寺八幡

安倍氏の居城があったとされる神宮寺嶽
ここに囚われた義家は、貞任の娘の助けで脱出を果たす



義家が陣を張った跡といわれる神宮寺八幡

秋田の義家伝説

赤字は安倍合戦伝説



幕林八幡

八乙女山に籠もる安倍貞任に対峙した義家の陣跡



秋田の義家伝説

赤字は安倍合戦伝説



阿賀の兜八幡

義家が安倍貞任に捕えられたとき、父頼義がその無事を阿賀の観音に祈願。貞任追討に成功した後、神社を建立したという。



秋田の義家伝説

赤字は安倍合戦伝説



生保内 草薙家住宅

義家を案内して「草薙」姓を賜った卒田小太郎の子孫の家



秋田の義家伝説

赤字は安倍合戦伝説

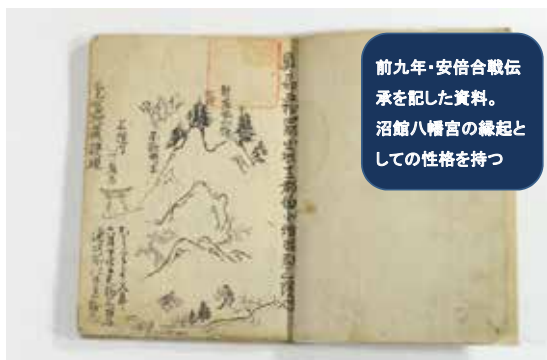


藤倉神社



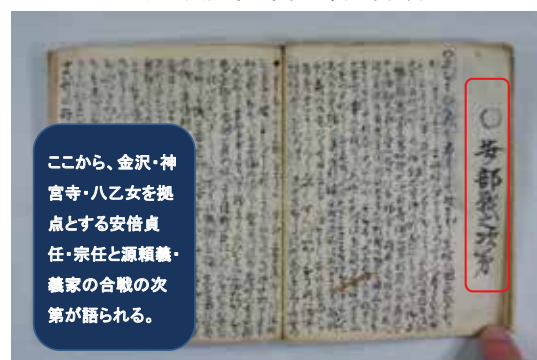
18世紀前半の「秋田三十三観音巡礼記」では慈覚大師の開基
19世紀前半の縁起では源義家創建と書き換えられる。

御領分神社仏閣縁起(金沢安倍軍記)冒頭 秋田県公文書館(東山文庫)蔵



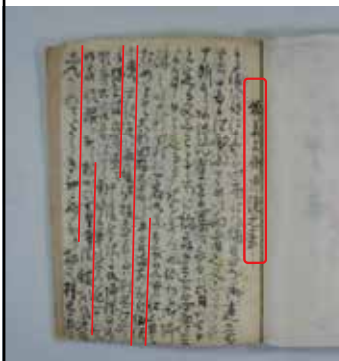
前九年・安倍合戦伝承を記した資料。沼館八幡宮の縁起としての性格を持つ

御領文神社仏閣縁起 (金沢安倍軍記部分冒頭)



ここから、金沢・神宮寺・八乙女を拠点とする安倍貞任・宗任と源頼義・義家の合戦の次第が語られる。

御領文神社仏閣縁起
(金沢安倍軍記部分「頼義公御帰陣之事」)



戸沢を打つれ仙北へ御帰陣の時、大荒田村に一宿有り。
小太郎兄弟仕置のためと、大荒田に押し置き給ふ。
平間頼朝を以て御領に置す。戸沢は角館に代り置し置
く。角館は御領に置す。手塚を以て白地に置す。其後、
金沢に御帰陣成され、御喜悅限りなし。
初より、初又さてまた權太郎には奥州五十四郡下さ
る。国々大名小名に軍功所領を結わり、本國に帰り
けり。大山太郎に關東八ヶ國の内三ヶ國を下さる。

御領分神社仏閣縁起(金沢安倍軍記)の書写奥書

◆義家が金沢・阿賀に八幡・觀音の靈社を建立し、小野
寺に城郭普請をさせた。
◆藤原の判官を大工奉行として沼館に八幡神社を建
立した。
◆当社沼館八幡の縁起、内神の諸仏の縁起を、仙北野
口花の澤屋に納めた。
◆延宝五年十月に、郡奉行・天徳寺の名で指示が出さ
れ、翌年四月二十四日に縁起を小沢五左衛門殿を
通して藩へ提出した。



古浄瑠璃八幡太郎義家物の流行(万治～延宝期)
阿部鬼若丸・御館権太郎・松浦合戦・
頼義奥州責・八まん太郎琴之縁etc

『八幡太郎義家あべのさだとうたいぢの事』
(寛文頃成立)との共通性

◆筋立ての共通性

安倍貞任等の城を攻撃中に、義家の愛馬が暴走して敵陣に飛
び込み、義家は生捕りにされてしまう。が、義家は貞任の娘(と
もに姫の名は「おのへのまへ」と想ろになる

◆名前の共通性

義家の愛馬:天下葦毛 貞任の娘:尾上の前

◆表現の共通性

『八幡太郎』から『御領分神社仏閣縁起』へという可能性

沼館八幡を支えた人々

慶長5年沼館城落城:沼館八幡焼失

→寛永年間再建・正保に焼失

『雪の出羽路 平鹿郡二』○沼館八幡宮御神宝

○寛文七年(1667)、秋田藤原成利作の舞獅子一頭を「**関口ハ之丞道長**、
佐々木四郎左エ門頼清が奉納。

○寛文八年(1668)三月十八日 **佐竹義隆**が浅舞鷹狩の際に御神体
と古作獅子一頭、鬼瓦等を閲覧。

○寛文八年十二月、**梅津半右衛門**の決済で漆木10本が八幡宮社之木
として御役免除。

○寛文十二年(1672)鰐口を角間川 **新田日喜右エ門藤原道房**が奉納。

○延宝六年(1678)四月、『御領分神社仏閣縁起』を提出。

○宝永五(1708)年田中伊賀作の神鏡を **石川五郎兵衛重儀**、鈴木兵右
エ門重常、**小沢市右エ門春豊**、**星山治部助経侶**、**小柳莊兵衛吉道**
が奉納。

小野寺旧臣で梅津半右衛門配下と思われる人々(赤字)が沼館八幡を支える。

沼館八幡宮の再建

○延宝六年(1678)二月二十九日、**佐竹義処**が鷹狩りに
際して高畑正喜を以て代参させる。

○同年四月、『御領分神社仏閣縁起』を提出。

○同年五月二十七日、**梅津半右エ門忠宴**が江戸より下
向に際して若宮八幡宮の牛王宝印を献上、初穂料と
して金子百疋を奉納。

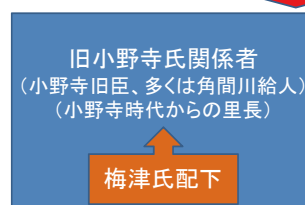
○同年、八幡宮の神社大破、奉加を願い出たところ、許
可が下り、**老中**を始め主殿殿、主計殿、淡路殿、重太
夫殿よりも奉加が寄せられた。

○延宝九(1681)年、**佐竹義処**を**大旦那**、**梅津半右衛門**
を代官として二間四面の本社建立。

沼館八幡宮再建の構図と
これを支える理屈としての安倍合戦
義家が小野寺に命じて建立させた神社の再建

藩主:佐竹義処(第三代)
家老:梅津半右衛門忠宴

支援



再建

旧沼館城内
にあった
八幡宮

慶長5年	1600	関ヶ原の合戦
慶長9年	1604	慶長国絵図作成(西国中心)
慶長19年	1614	大阪冬の陣
慶長20年	1615	大阪夏の陣
元和2年	1616	家康死去
寛永9年	1632	秀忠死去
寛永10年	1633	国廻り上使(巡見使)派遣、国絵図を収集
寛永20年	1643	『寛永譜家系図伝』(林羅山が中心、寛永18年編纂開始)
正保元年	1644	『正保国絵図』(完成は慶安4年[1651])
慶安4年	1651	『本朝編年録』(林羅山神武朝から宇多朝まで完成)
寛光死去		
万治～延宝	1658～60	古浄瑠璃『八幡太郎義家』物の流行 『あべのさだとうたいちの事』は寛文頃
寛文元年	1661	『奥羽軍志』(林鶯峯)
寛文2年	1662	『本朝通鑑』編纂開始(林鶯峯、寛文10年[1679]完結)
寛文4年	1664	寛文印知
寛文6年	1666	『金澤風土記』 ← 会津藩による領国に関する《知》再編の
寛文7年	1667	諸国巡見使の制を制定
延宝8年	1678	『御領分神社仏閣鑑起』を藩に提出(奥書)

幕府による《知》の再編

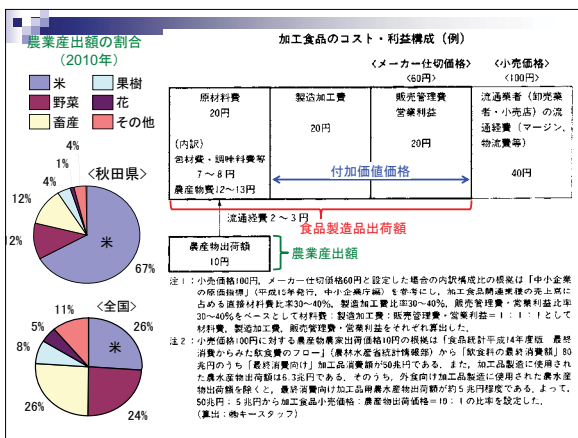
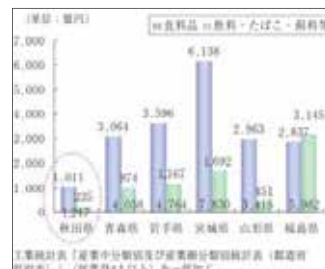
池本 敦

秋田学・白神学ミニシンポジウム

地域文化学科 地域社会講座
生活科学領域
池本 敦

東北の食料品・飲料等の出荷額
(平成20年)

順位	食品製造品出荷額 (億円)	
1	静岡県	22,948
2	北海道	20,864
3	愛知県	20,356
15	宮城県	8,927
17	福島県	7,789
23	岩手県	4,782
30	青森県	3,760
34	山形県	3,136
44	秋田県	1,247
	全国	343,684



```

graph TD
    subgraph LocalResources [地域食資源]
        direction TB
        subgraph Unused [未利用]
            Natural[天然物(山菜等)]
        end
        subgraph Waste [廃棄]
            Crop[農作物]
        end
    end

    subgraph HealthMaterials [健康素材]
        direction TB
        Lipid[脂質]
        Bioactive[生理活性物質]
    end

    subgraph FoodTools [食品加工ツール]
        direction TB
        Enzyme[酵素・タンパク質]
        Gene[遺伝子]
        Microbe[有用微生物]
    end

    subgraph HealthFood [健康食品  
化粧品  
医薬品シーズ]
    end

    subgraph Properties [生理活性  
有効性  
安全性  
安定性  
嗜好性]
    end

    LocalResources --> HealthMaterials
    LocalResources --> FoodTools
    HealthMaterials --> HealthFood
    FoodTools --> HealthFood
    HealthFood --> Properties

    LocalResources --> IP[特許や地域ブランドを知的財産として活用]
    IP --> Contribution[食品製造品出荷額や付加価値価格の増加へ貢献]
  
```

水溶性抽出物

- ① シトルリン高含有(血流改善)
- ② ACE阻害作用(高血圧予防)
- ③ 抗酸化能(一部シトルリンの効果)

有効成分をエキス化、

項目	数値
純度	100%
粘度	7000
凝固点	10℃
沸点	340℃
比重	0.96
闪点	210℃

特許出願（2010年 11月18日）
 発明の名称
 「生理活性組成物、高血圧予防食品
 及び薬剤、並びにそれらの製造方法」
 出願番号 特願2010-257900
 出願人 秋田大学 横手市

健康食品素材・原料として活用

「**粋果の夢**」 スイカ糖と混合 サプリメント お菓子(さなずら、クッキー)

秋田の地域食資源の中から**メラニン色素**産生を抑制する素材を探索した結果、山菜として食される**ホシナ**が**チロシナーゼ阻害作用**と**抗酸化能**を持ち、非常に有効なことを見出した。

- ・キク科コウモリソウ属の多年草
- ・5、6月頃伸びた**若芽を食用**とする
- ・秋田では標高200メートル以上、関東では1500メートル以上で生育する
- ・民謡「秋田おぼこ」にも登場する**秋田を代表する山菜**

高ポリフェノール
GABA含有
ホップ茶(葉:球花=

高ポリフェノール
GABA含有
ホップ茶(葉:球花=

 未研究 未利用 ホップ葉	 ビールに利用 多くの研究 独自性低い ホップ球花
---	--

- ①ACE阻害作用(高血圧予防)
- ②抗ガン作用
- ③抗酸化作用(ポリフェノールの効果)

- ①葉の生理機能の確認
- ②新規機能を有する成分の同定
(特許性や産業上の優位性が高い)
- ③ホップ葉を健康食品素材として開発

ホップ茶の有用性の証明と利用拡大

ホップ葉を利用したうどん ホップ葉を利用したパン

α-MSH → α-MSH 受容体 → Gタンパク → ホシナ抽出物

ホシナ抽出物 → 抗酸化物質 → チロナーゼ阻害物質 (強い抗酸化能) → 抑制 → チロナーゼ

ホシナ抽出物 → 第3の効果 → 抑制 → チロナーゼ

ホシナ抽出物 → 第2の効果 → 抑制 → チロナーゼ

チロナーゼ → 酸化重合 → メラニン色素

チロナーゼ → 酵素反応 → メラニン色素

チロシン (アミノ酸) → チロナーゼ → メラニン色素

チロナーゼ遺伝子 → 転写 → mRNA → チロナーゼ

プロモーター配列 → 転写 → mRNA

転写因子MITF → 転写 → mRNA

CREB → PKA → チロナーゼ

ATP → cAMP → アデニル酸シクラーゼ → チロナーゼ

Forskolin活性化 → アデニル酸シクラーゼ → チロナーゼ

MITF抑制物質 (MI-A・B = EM物質) → 抑制 → チロナーゼ

抗酸化物質 → 抑制 → チロナーゼ

チロナーゼ阻害物質 (強い抗酸化能) → 抑制 → チロナーゼ

第1の効果 → 抑制 → チロナーゼ

第2の効果 → 抑制 → チロナーゼ

第3の効果 → 抑制 → チロナーゼ

メラニン色素

特許出願

- ・ 2012年2月 9日 特願2012-025967 (秋田大学)
メラニン抑制及びMITF抑制作用を有する美白用組成物及び抗がん剤
- ・ 2013年3月29日 特願2013-074373 (秋田大学、秋田高専)
小眼球症関連転写因子抑制剤、メラニン産生抑制剤、化粧品組成物及び抗がん剤

④ アケビ油や果皮の健康食品化

江戸～明治期の秋田

各家庭でアケビを採集し、種子から油を搾る
あぶら問屋が買い集める
京や江戸の寺院や高級料亭に販売
最高級の油・食用油の王様と呼ばれる
現在は廃れてしまった

アケビ油復活プロジェクト(2003年～)

秋田県仙北市(旧西木村)で開始

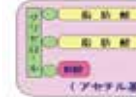


秋田県西木村郷土史より
『角館の北家の二代佐竹義明は(中略)、1765年、京都の寺院と(親類)関係があつて北家では角館の園田の村で絞ったアケビの油をあつめてわざわざ(中略)、アケビの油を贈った』
『角館町横町の文兵衛どんは(中略)、古くから油を扱っていた店で、昭和の初めころまで、検木内・西明寺でとれたアケビの油を買い集めていた』
『明治の末ごろ東京で、御座敷テンブラ用の油はアケビ油にゴマ油をまぜたのが最高美味なものとされた』



研究開発シーズの新規性・優位性

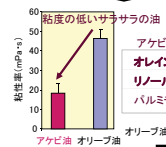
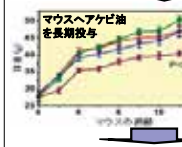
アケビ種油は新規成分DAGAを85%以上含有する独創的素材であることを発見



一般的な植物油
トリグリセリド
(TG)
DAGAはアケビ科以外の植物では見つからない

1,2-ジアシルグリセロ-3-アセテート(DAGA)

機能性を発見



オレイン酸、リノール酸高含有
アケビ油含有脂肪酸ベスト3
オリーブ油はオレイン酸単独高含有

脂肪がつきにくく太りにくい油

保湿用化粧品油脂原料

食用油としての優位性(アケビ油最大の特徴) 化粧品としての優位性

秋田県内中山間地の耕作放棄地を活用してアケビ栽培を促進する活動を継続



アケビ栽培の利点

- 栽培が簡単にできる
- 無農薬で低コスト、手間がかからない
- 場所を選ばない(荒廃地、傾斜地、休耕田)
- 棚を低くすれば収穫しやすい

春先が低温である気候

病気・害虫が発生しにくい
色が鮮やかな紫になりやすい

秋田県が最も栽培に適した地域である

荒廃地となっている中山間地の有効活用
高齢者農家の生き甲斐となるモデル事業

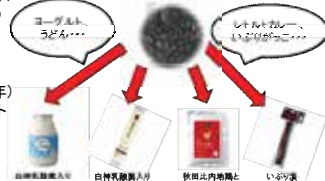
⑤ 白神山地で発見された乳酸菌「作々楽(ささら)」の食品への活用

白神手づくり工房有限会社

- 商標登録(2009年)
「白神作々楽(ささら)」
- 経産省・農水省 地域資源認定(2010年)
- 特許出願 特願2012-81437(2012年)
「乳酸発酵甘酒、乳酸発酵甘酒の製造方法および乳酸発酵甘酒を含む調味料」
- 特許出願 特願2012-81438(2012年)
「レトルトパウチ食品およびレトルトパウチ食品の製造方法」

抗菌作用の強い乳酸菌『作々楽(ささら)』を使用した商品は、消費期限の長さを特徴とする。

『作々楽(ささら)』



研究の目的

乳酸菌応用食品の飲料に着目

秋田の資源である米 × 白神山地の乳酸菌 → 「白神ささら」

有用な成分や健康機能を追求

健康機能の付加による商品の付加価値の上昇
商品戦略の多様化と拡大

- 1) 秋田県産米の消費拡大
- 2) 地元地域名のPR
- 3) 白神ブランドの確立
- 4) 雇用の創出

地域活性化に貢献

一般社団法人 東北経済連合会(東経連) 新事業開発・アライアンス助成事業

白神手づくり工房 × 秋田大学 → 共同研究プロジェクト

乳酸菌「白神ささら」を活用した商品の機能性の研究

北羽新報 2015年4月23日

一般社団法人 東北経済連合会の「新事業開発・アライアンス助成事業」に採択された。

(期間: 2015年4月～2016年3月)

有効性のある成分を特定し、表示することで商品の機能性を消費者にアピールすることが目的。



「農林水産物・食品の地域ブランド」の目指すべき姿

農林水産物等の競争力強化や地域活性化のために農林水産物・食品の地域ブランドを作っていくという目的を念頭に置く。『農林水産物・食品の地域ブランドの目指すべき姿』は、以下の要件を満たすべきだと考えます。

- ① 「もの」の価値の確立 → 健康機能
...食味、栄養等の品質の良さを確立していること。
- ② 地域との関連性、地域の人々の愛着
...自然的、歴史的、風土的、文化的、社会的等地域との何らかの関連性を有し、地域の人々が愛着を持つようになっていること。
- ③ 売り方の工夫
...「もの」の価値や地域との関連性を伝えるため、適切な表示やパッケージデザイン、マーケティング等売り方が工夫されていること。
- ④ 消費者の信頼を裏切らないブランド管理
...「ブランド」とは消費者の信頼により成り立つことを認識し、その信頼を裏切らないブランド管理(品質・表示)を行っていること。



教育・研究プロジェクト

秋田学・白神学について

■秋田には、様々な文化的・地域的価値を持ったものがあります。その中には、きっと、私たち自身がその価値に十分にまだ気づいていないものもあります。そのようなものを見いだすためには、秋田県の実地や文化を、学術的に多角的にそして地域的に捉え直す必要があります。すなわち、秋田県各地における地域生活の知恵を学術的に相対化・客観視し、その良き英知を蓄積・明瞭化して継承することを考えるのです。全国標準・世界標準の見識と視野を参考に、秋田らしさ、その土地らしさを重視した地域学の創造です。最終目標は上げさに言えば「秋田型地域生活モデル」の提唱です。

■教育文化学部では、8年以上にわたって、各教員有志の努力と自主的な研究連絡組織の活動により、「秋田学・白神学」と総称されるような地域学研究を進めてきました。地域を総合的に理解するためには、狭い専門分野の研究蓄積だけでは不足で、様々な専門分野の研究者の連携協力と情報交換が欠かせません。教育文化学部にはそのような多彩な研究者が揃っています。

■これまで「秋田学・白神学」に携わった研究分野は、社会学、歴史学、民俗学、日本語学・方言学、社会科教育学、音楽、気候・気象学、天文学、地質学、水文学、植物学、生態学、栄養学、生活科学、情報科学などです。研究対象あるいは活動課題はたとえば、中山間地域における高齢者社会、古代の秋田、秋田の祭り、地域振興・文化調査、秋田のことは、秋田の民謡・音楽教育、天文教育「白神の星」プロジェクト、巨大噴火と古代遺跡、ジオパーク、火山地域の湧水・地下水、地衣類による環境評価、アケビ油の商品化、秋田大学版いぶりがっこ「いぶりがばでい」製造など、実に多様です。また、白神山地の麓の八峰町には、元小学校舎の一部を借り受けた研究・学習拠点もあります。



秋田駒ヶ岳での実習風景

■「秋田学・白神学」が貢献しようとするのは、たとえば次のような地域生活です。①自然と伝統を生かし、最小限のエネルギーと資源・金銭で実現する、持続的文化的な地域生活。②高齢社会に対応し、若人・幼年者を大切に、必要な知恵と環境を次世代に継承する地域生活。いずれも従来の都市型消費生活とは異なり、地域と生活の持続性を重視し、実践的生活観・価値観の変革を伴っています。

■今後はさらに広い専門分野の教員が組織的に参加・連携できるよう、そして何よりも現場で地域住民の方々からより多くを学ばせていただけるよう、研究環境を整備して「秋田学・白神学」の多様性を保つとともに、一層の実体化を図ります。また、秋田大学地域創生センター（地域創生課）と北秋田・男鹿・横手分校、あるいは県内地方自治体とも連絡を取りつつ、各教員・学生の研究が充実するような場作りを心がけていきます。その結果としての研究成果は、各教員の研究業績になると同時に、教育文化学部の新しい学校教育課程および地域文化学科の「地域学」関連授業に確実に反映されるでしょう。

（秋田学・白神学研究運営委員会）



鳥海山・獅子ヶ鼻湿原

沿 革

平成19年（2007）10月	秋田県より「秋田学構築のための調査研究」について受託研究の申請があった。 研究目的：道州制への移行を見捉えつつ「元気なふるさと秋田づくり」の推進に向け地域アイデンティティを高め、県民が郷土に誇りと愛着を持ち、自信を持って秋田を語れるようにするため、秋田の自然・風土・文化・歴史などについて、体系的に整理するとともに、県民が親しみをもってアプローチできるようなしくみを構築する。 受託期間：平成19年10月～平成20年3月 研究代表者 林信太郎 教授
平成19年（2007）12月	秋田学の構築に関する研究会発足14名（学部教員11名、県庁職員3名）
平成19年（2007）12月19日	第1回秋田学の構築に関する研究会 開催 議題 会長選出、今後の活動方針 研究会会長に林信太郎教授が選出された。 平成20年3月にシンポジウムを開催することを決定した。
平成20年（2008）3月1日	シンポジウム「秋田学」から探る秋田の可能性を教育3-255で開催 約70名が参加
平成20年（2008）3月18日	平成19年度 受託研究 秋田学構築のための調査研究報告書発行
平成20年（2008）12月13日	シンポジウム 謎の遺跡「弘田柵」から探る秋田の可能性 教育3-255で開催
平成21年（2009）3月	シンポジウム 謎の遺跡「弘田柵」から探る秋田の可能性 報告書発行 発行：教育文化学部「秋田学」の構築に関する研究会
平成22年（2010）3月19日	2009年度「秋田学・白神学の発展的な構築に向けた取り組み」報告書 発行 発行：教育文化学部秋田学・白神学研究会 代表：渡部育子教授、世話人：寺井謙次教授
平成22年（2010）7月	国立大学法人秋田大学の平成20年度に係る業務の実績に関する評価結果の中で、「秋田学」、「白神学」は地域に密着した研究であるという観点から注目事項として評価された。
平成22年（2010）7月	平成22年度年度計画推進経費採択 秋田学・白神学の知の構築と地域社会への環流の取り組み 代表者 渡部育子教授
平成23年（2011）1月30日	シンポジウム 秋田学ルネッサンス ―秋田学の記憶、今、よみがえる、未来に向けて―を開催 約50名参加 秋田ビューホテル
平成23年（2011）3月	シンポジウム 秋田学ルネッサンス ―秋田学の記憶、今、よみがえる、未来に向けて―報告書を発行
平成24年（2012）5月	秋田学・白神学研究運営委員会設置 委員長 篠原 秀一教授
平成27年（2015）1月	秋田学・白神学総合成果報告書（平成22年4月～平成26年9月）発行
平成27年（2015）12月11日	秋田学・白神学ミニシンポジウム開催
平成28年（2016）1月	秋田学・白神学総合成果報告書（平成22年4月～平成27年12月）補遺版発行

〔研究業績〕（秋田学，白神学に関連する業績）＜平成22年4月～平成27年12月＞

報告者：石井照久	
1) 著作者名と単著・共著の別： 石井照久・佐藤彩弥佳（共著）	
2) 著作名称 / 論説・著書・作品・実演等の区別 平成24年度全国学力・学習状況調査の理科について―秋田県の結果を含めて―／論説	
3) 発表（刊行）年月 2015年3月	
4) 学術雑誌・出版社・発表会等名称 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 第37号	
5) 頁数等 pp. 55-68	
6) 対象地域（市町村等） 秋田県全県	
7) 概要(100～200字程度) 平成24年度に初めて実施された理科の全国学力試験の問題の内容を吟味するとともに、秋田県の小学校と中学校が理科においても好成績をあげたことについて考察した。秋田県の小中学校が、理科においても全国でトップクラスの学力をもつのは、良い生活習慣と学習習慣、優れた教師陣、豊かな自然環境など様々な要因からだと考えられた。	

〔研究業績〕（秋田学，白神学に関連する業績）＜平成22年4月～平成27年12月＞

報告者：石井照久	
1) 著作者名と単著・共著の別： 石井照久・山名裕子・宮野素子・立花希一（共著）	
2) 著作名称 / 論説・著書・作品・実演等の区別 「地域学基礎＜あきたの食＞講座」の3年間の実践報告／論説	
3) 発表（刊行）年月 2015年3月	
4) 学術雑誌・出版社・発表会等名称 秋田大学教養基礎教育研究年報 第17号	
5) 頁数等 pp. 41-51	
6) 対象地域（市町村等） 秋田県全県	
7) 概要(100～200字程度) 平成24年度より開講された大学の授業科目である「地域学基礎＜あきたの食＞講座」の3年間の実践報告である。授業での活動で、学生たちによって秋田県全域にかかわるユニークな食文化の特徴が明らかになった。その一部を紹介すると、秋田で新しいソールフードが続々誕生していること、秋田で意外と知られていない食材が梨であること、秋田は伝統的な和菓子が豊富なこと、米粉をパンやケーキへ利用するきっかけとなった米粉の製粉工場が秋田にあること、秋田は信州に次いで味噌の消費量が多いこと、秋田の地産地消率が低いこと、など一般には知られていないことが明らかとなった。	

〔研究業績〕（秋田学，白神学に関連する業績）＜平成22年4月～平成27年12月＞

報告者：西川 竜二	
1) 著作者名と単著・共著の別：	西川竜二、佐々木優花（共著）
2) 著作名称 / 論説・著書・作品・実演等の区別	統計調査の公表データによる県別の建築年別の住宅ストックの将来推計およびその利用方法に関する研究 ―秋田県における2020年までの住宅の省エネルギー化の推進に関する試算を例にして―. / 著書
3) 発表（刊行）年月	2012年
4) 学術雑誌・出版社・発表会等名称	秋田大学教育文化学部研究紀要 自然科学, (67)
5) 頁数等	pp.11-16
6) 対象地域（市町村等）	秋田県
7) 概要(100～200字程度)	本研究では、まず、大野の方法を用いて2008年における秋田県の建築年別住宅ストックを推計し、その結果から次世代省エネルギー基準適合の住宅ストックの戸数と割合を求めた。次に、大野の方法を応用して建築年別住宅ストックの将来推計を行う方法を考案し、2020年における秋田県の建築年別住宅ストックの将来推計を試みた。さらに、そうして得られた建築年別住宅ストックの将来推計の利用方法として、地球温暖化対策として住宅運用時のエネルギー使用量（に係るCO ₂ 排出）を効果的に削減するためには、秋田県ではどのようなペースで住宅の断熱化や太陽光発電を推進させていく必要があるかのマクロな試算を示した。

〔研究業績〕（秋田学，白神学に関連する業績）＜平成22年4月～平成27年12月＞

報告者：西川 竜二	
1) 著作者名と単著・共著の別：	西川竜二、大坂絵美（共著）
2) 著作名称 / 論説・著書・作品・実演等の区別	冬季における自宅での入浴行為にともなうヒートショックの実態と対策に関する事例調査 ―住宅の熱性能および年齢と入浴順序による比較―. / 著書
3) 発表（刊行）年月	2013年6月
4) 学術雑誌・出版社・発表会等名称	日本建築学会東北支部研究報告集計画系, (76)
5) 頁数等	pp.19-26
6) 対象地域（市町村等）	秋田県内（秋田市、横手市）
7) 概要(100～200字程度)	秋田県内の住宅熱性能に違いのある3世帯の高齢者・中年・青年の同居家族を対象に、寒さの厳しさの異なる秋または初冬、冬季に、入浴行為に伴う温熱環境・生理量・心理量の実測調査を行い、冬季の調査ではヒートショック対策を被験者へ提示して対策効果の検証を行った。

〔研究業績〕（秋田学，白神学に関連する業績）＜平成22年4月～平成27年12月＞

報告者：西川 竜二	
1) 著作者名と単著・共著の別：	西川 竜二（単著）
2) 著作名称 / 論説・著書・作品・実演等の区別	地域の伝統民家から環境共生を学ぶ / 著書
3) 発表（刊行）年月	2011年10月20日
4) 学術雑誌・出版社・発表会等名称	秋田発 未来型学力を育む家庭科.[開隆堂出版株式会社] 望月一枝、佐々木信子、長沼誠子、編
5) 頁数等	pp.94-95
6) 対象地域（市町村等）	秋田市
7) 概要(100～200字程度)	地域の伝統民家には自然環境・社会環境との共生の形と型が備わっており、それが環境共生的な住まい・住まい方を学ぶ教材になることを述べた。そして、秋田市の伝統的な町家建築である旧金子家住宅（市指定有形文化財）を対象にして、その復元時の図面等に基づいて対象住宅のペーパークラフトを作製し、その模型と絵巻等の文献資料や実際の建物と街並みとを用いた学習、金子家と他の地域や時代の建物の模型を使った学習方法を提案した。

〔研究業績〕（秋田学，白神学に関連する業績）＜平成22年4月～平成27年12月＞

報告者：西川 竜二	
1) 著作者名と単著・共著の別：	西川 竜二、高橋美奈子（共著）
2) 著作名称 / 論説・著書・作品・実演等の区別	東北地方における冬期の住宅熱環境の評価指標に関する研究 ―近年の実測データを用いた既往の3指標の点検および新指標の素案の作成― / 著書
3) 発表（刊行）年月	2011年6月
4) 学術雑誌・出版社・発表会等名称	日本建築学会東北支部研究報告集計画系、Vol.74
5) 頁数等	pp.1-8
6) 対象地域（市町村等）	秋田県
7) 概要(100～200字程度)	本研究では、東北地方における冬期の住宅の近年の実測データを用いて、まず既往の指標による評価を行い、既往の指標の目標水準等が適当かを検討した。更に、その結果をふまえて、一般の居住者にも理解と使用が難解でなく、現在の住宅熱環境の実態や地域社会の課題（高齢社会の進行と高い脳血管疾患死亡率への対応、家計やエネルギー環境面からの暖房用エネルギー削減要求）にも合った指標について検討と試作を行った。

〔教育業績〕（秋田学・白神学に関する実習・演習を含む授業，市民対象の講演等）

＜平成26年10月～平成27年12月＞

報告者：石井照久	
1) 授業等の名称（題目）	秋田南高等学校 スーパーグローバルハイスクール事業「あきたの食考察（食べることは＝生きること）」
2) 授業等の年次・期間・曜時限（あるいは）時間帯および場所	高校一年生対象・平成27年6月4日・14：30 - 15：30・秋田南高等学校
3) 対象学生・生徒・児童とその数（講演会の場合は，来場者数）	高校一年生・80名
4) 対象地域（実施地域）	秋田県全県
5) 報告書等の有無（あればその名称）	無
6) 概要(100～200字程度)	南高校から依頼されて行った出前授業である。授業の大きなテーマが「農と食」であったので、あきたの食、について、伝統的な食文化を解説するとともに、それらが継承されにくくなっている現状を講義した。また、食べるという行為が生きることと直結していることも解説した。

〔教育業績〕（秋田学・白神学に関する実習・演習を含む授業，市民対象の講演等）

＜平成26年10月～平成27年12月＞

報告者：石井照久	
1) 授業等の名称（題目）	岩見三内中学校での出前授業「川の生物観察会」
2) 授業等の年次・期間・曜時限（あるいは）時間帯および場所	中学生1年から3年生・平成27年8月28日13時 - 15時30分・秋田市岩見三内中学校
3) 対象学生・生徒・児童とその数（講演会の場合は，来場者数）	中学校生徒1～3年・31名
4) 対象地域（実施地域）	秋田市岩見三内
5) 報告書等の有無（あればその名称）	無
6) 概要(100～200字程度)	平成17年から岩見三内中学校で継続して行われている、ふるさとの川、岩見川と三内川の川の生物の観察会の講師（出前授業）を、平成18年から継続して依頼されている。実際の出前授業では、川の生物の解説を行った後、現地（川）で、実地観察の指導を行っている。現地では中学生徒と教職員とともに川の生物を採集・観察した後、生物をリリースして帰ってきている。ふるさとの川の自然環境を継続観察している授業である。

採択テーマ一覧

【学外公募】

1. 秋田県県南内陸地域の仕事着について

内 容 等：昭和初期から30年頃までに県南内陸地域で使われていた仕事着について、既往文献と現物資料により、その構造特性や・機能特性を明らかにする。その中で、秋田県大仙市内南外地域の仕事着の特徴について周辺他地域と比較検討する。

提案部署等名：大仙市生涯学習部生涯学習課

取組学生：地域科学課程生活者科学選修 高橋 沙季

指導教員：地域科学課程生活者科学講座 石黒 純一

2. 藤里町における最適な地域情報基盤の社会地理学的研究

内 容 等：行政の広報紙、回覧板、お知らせ、ホームページによってどこまで通じているのか、またコミュニティ活動を再生化するための過疎地における情報共有モデルとはいかなるものがあるのか、視読率等などを通じて、高齢化と情報化の問題を明らかにする。

提案部署等名：藤里町総務課企画財政係

取組学生：地域科学課程文化環境選修 佐藤 慎之介

指導教員：地域科学課程文化環境講座 篠原 秀一

3. ICT を利用した市民・自治体の協働による地域問題解決モデルの可能性について

内 容 等：市内各地域の身近な課題を FixMyStreetJapan などの既存のアプリを活用して情報を収集し、その課題について地域で解決する方法がないか、行政が本来解決すべき課題なのかを地域住民等で顕彰するため仕組みづくりについて研究を行う。

提案部署等名：秋田市総務部総務課

取組学生：人間環境課程環境応用選修 浅利 夏美

熊谷 康平

佐藤 朝香

指導教員：人間環境課程環境情報講座 林 良雄

4. 成人期（若者）における消費者教育の在り方

内 容 等：中学校家庭科教育を通して自立した消費者の育成を目指す観点から、発達段階や実態に即した消費者教育の教材を開発し、家庭科の学習が家庭生活での実践につながるための方策を検討するとともに、大学生の消費者問題に関わる実態や意識を調査・分析し、学校教育と社会教育の両方の視点から消費者教育の在り方を検討する。

提案部署等名：秋田県生活環境部県民生活課消費生活班

取組学生：地域科学課程生活者科学選修 丹 美紗季

指導教員：学校教育課程教科教育学講座 佐々木 信子

平成26年度秋田大学教育文化学部地域連携推進事業
卒業論文及び大学院教育学研究科修士論文テーマの公募 成果報告会
実 施 要 項

趣旨 秋田大学教育文化学部では、自治体等との連携・協力による地域教育への貢献および研究成果の地域社会への還元を目指し、卒業論文テーマ及び修士論文テーマを自治体等から公募する事業を実施しています。今年度、各自治体より提案いただき、連携して取り組んだ4つのテーマについて、その成果を広く発表する機会として、秋田大学を会場に成果報告会を開催いたします。

日時 平成27年3月19日（木）14:00～16:20

会場 秋田大学教育文化学部3号館343講義室（秋田市手形学園町1番1号）

次第 1. 挨拶（14:00～14:10）

教育文化学部長 武田 篤

2. 成果報告（14:10～15:40）

（1）研究題目 「秋田県南外地域の仕事着について」（報告15分、質疑応答5分）

取組学生 地域科学課程 生活者科学選修 高橋 沙季

指導教員 石黒 純一 教授

連携自治体等 大仙市教育委員会

（2）研究題目 「秋田県藤里町における住民間の地域情報共有の現状とその適切な形態」

（報告15分、質疑応答5分）

取組学生 地域科学課程 文化環境選修 佐藤 慎之介

指導教員 篠原 秀一 教授

連携自治体等 藤里町

（3）研究題目 「ICTを利用した市民・自治体の協働による地域問題解決モデルの可能性について」

（報告25分、質疑応答5分）

取組学生 人間環境課程 環境応用選修 浅利 真美

熊谷 康平

佐藤 朝香

指導教員 林 良雄 教授

連携自治体等 秋田市

（4）研究題目 「青少年の生活課題を踏まえた消費者教育の在り方について

— 中学校技術・家庭科における効果的な指導法 —」（報告15分、質疑応答5分）

取組学生 地域科学課程 生活者科学選修 丹 美紗紀

指導教員 佐々木 信子 准教授

連携自治体等 秋田県

—休憩（15:40～15:50）—

3. 総合討論（15:50～16:10）

4. 次年度の新規採択テーマと連携自治体等の紹介（16:10～16:15）

5. 総括（16:15～16:20） 地域連携委員長 篠原 秀一

主催 秋田大学教育文化学部地域連携委員会

問合せ先 秋田大学教育文化学部総務担当

電話 018-889-2509 E-mail kyosou@jimu.akita-u.ac.jp

指導教員別学部卒業者の卒業研究題目一覧（平成22年度～平成27年度）

卒業年月	課程等	卒業研究題目
23.3	地・生	秋田大学における夏期教室の温熱環境と冷房使用状況に関する実測研究
23.3	地・生	東北地域の冬期実態調査に基づく住宅の温熱環境指標の検討
23.3	地・生	ペーパークラフトを用いた秋田の伝統民家に学ぶ住居教材の開発
23.3	人・自	山地観測点データを用いた東北地方における推定雪水量の検証
24.3	地・生	秋田市の学校教室における自然エネルギー利用手法の導入効果に関する夏期の温熱・光環境実測　－外付け日除けとナイトパーズおよび昼光照明の試行実験－
24.3	地・生	秋田大学一般教育棟・教育文化学部棟の全普通教室を対象とした冷房方法改善による省エネ・学習環境向上の両立をめざした夏期温熱環境の実態把握　－2010年と電力使用制限下2011年における実測およびデータ分析－
24.3	地・生	東北地域における冬期住宅熱環境の構造分析
24.3	人・自	秋田県内の小規模風穴の研究 ～寒風山風穴と猿穴～
25.3	地・生	冬季における自宅での入浴行為に伴うヒートショックの実態と対策に関する事例調査
25.3	地・生	「ナマハゲ伝導士認定試験」が男鹿のナマハゲの伝承と観光振興に果たす役割
26.3	地・生	秋田駅前活性化における中心市街地循環バスに関する研究
26.3	地・生	秋田県の廃校利用に関する研究
27.3	地・生	秋田市における大学生の地域資源認知度と地域への愛着に関する研究
27.3	地・生	秋田県におけるヒートショックが影響する死因の死亡率と住宅環境に関する統計分析
27.3	地・生	秋田県の戸建住宅における夏季の暑さと熱中症の危険度に関する調査研究
27.3	人・自	秋田県産トウホクサンショウウオを用いた中学校理科の教材開発
27.3	人・自	八郎潟に生息する淡水産介形虫について
27.3	人・自	八郎潟に生息する淡水産タナイスについて
27.3	人・自	新規簡易飼育法によるクマムシの飼育について
27.3	人・自	秋田大学手形キャンパス内の陸貝相
27.3	人・自	生物学からみた「あきたの食・食育」に関する基礎研究

あ　と　が　き

昨年度の「総合成果報告書」に続いて、その補遺版をお届けする。十全を尽くして教育文化学部が多様で裾野の広い「秋田学・白神学」の活動を網羅したかったが、残念ながらそれは果たせなかった。それぞれの貴重な活動が有機的に結びつき、学部全体をも動かす一体的組織的な研究・教育群になるには、「共通の研究教育の場・時間」が必要だが、そのうちの自由で建設的な「雑談の場・時間」を定期的にも不定期的にも設定できなかった。「秋田学・白神学」の定義も重要性の主張も不十分であったと反省ばかりである。

今後、「秋田学・白神学」で表現されるような研究教育の部分は、地方国立大学にとってより重視される部分になっていくはずである。この「秋田学・白神学総合成果報告書補遺版」には、幸いなことに、これまでの経緯を含め、今後の「秋田学・白神学」研究・教育の可能性を示唆するミニシンポジウム成果を収めることができた。その成果もふまえ、より活発で学術的で教育的な「秋田学・白神学」が、将来、数多くの教育文化学部教職員・学生たちによってじっくりと進展していくことを期待したい。そのためには、細々でも「秋田学・白神学」研究教育の場を様々に継続確保することが今後も重要となる。

平成28年 1 月　秋田学・白神学研究運営委員会

秋田学・白神学総合成果報告書
(平成22年4月～平成27年12月) 補遺版

印刷・発行 平成28年 1 月

編 集 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

秋田大学教育文化学部秋田学・白神学研究運営委員会
委員長 篠 原 秀 一

